

79 (明治16年) 1月8日 菊池たよ

新年の御祝何方も同し御事ニ目出度申納候先ニ皆々揃相祝候半
と□ニめてたく御悦ひ申入候此元おはア様おと々様御きけんよ
く外皆々私し共もにぎ々敷揃いは打悦ひ居候御安心被下度候

此間おいちぢおと々様エ状上候趣ニ赤ほふの出息物ハ大分かせ
に相成候よしそれハよけれ共ゐるきたために薬のませ居る趣
いと々安して計り居る所エそんな事き々て扱々とふした事とと
□ぎもしまいにた々々ある計り大べんの道しでもハあしく候
哉とふしても母の手に計りおりかつゆへち々のみしぎるために
そんな事ニ相成候哉どふいふようしておるかた々々あんし
居候とうがびへぬようニしておなみやおこふさんにだいいあるが
せ遊ハせるようニしておながこなしするようニするほうハよろ
しく哉と思われ候此元の赤ほふハ私しなしのためにおくの私の
元ならやりきる物もりた入一存きせいつめエ計り入おぎま事
々々かわいそうで此間とうきこしらいきせ候かをるの時にくら
ぶれハ実ニ々々そまつにしてそだでお候へ共其くせまめ々々
しくいかに男とてほねふとくふとりづくり々々たづようニして
おり候まがぎも此ようなれハよいと実ニうら山しく存居候かほ
ハ男たけかまかきの半分もかわゆく無候いつれの孫も同しにか
ハゆく候へ共今タ其元におる時の心のこり其元の赤ほふ計り思
ひ出し居候かをるハ日増にのさばり朝四時五時おおき遊ひ候に
ハこまり申候それかために下され候私しに候へハおはア様エた
いし何共申とう無候へ共私し其元ニてらぐいたし久しふりで大
からたたきねしるためか実ニこまり候へ共何分だぐもおぶも致
さぬようニしてせわ致居るためか別ニかわり無候ま々お安事被
下間候其元の寒気ハいか候哉此元ハ昨冬の々々の頃の寒に成
候かへつてひいゆるみ候ようニ御座候どうぞ々々あまりちよぎ
寒無ようなれハよろしくおはア様も寒気に御さわりも無入らセ

られ候嬉しく存居候まかきほふの様子御しらせ被下度皆々時こ
ふせつかく御しのきニ成候ようあらくめてたくかしこ

一月八日

たよ

武夫との

おいちとの

尚々旧冬申こしのごし候新戸べが中さしこしらへ賃ほうし代き
せる代受取五円八十銭おとく様エ上納致候左やう御しようち被
下度